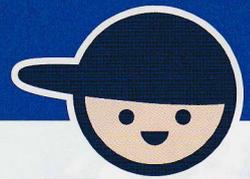


堂林園らを輩出した豊田リトルシニア



少年野球大好き

■文と写真 相羽としえ



全国屈指の名門チームです

取材で訪れたその日、午前中に日本選手権東海大会予選を戦ったその足で、岐阜県中津川市から愛知県豊田市の浄水グラウンドに戻って練習。豊田リトルシニアの選手たちはとても元気だ。2012年に日本リトルシニア選手権大会で優勝、翌年は全国リトルシニア選抜大会4位、日本リトルシニア選手権大会で3位を収めた全国屈指の名門チームである。

1978年に創立された豊田リトルシニアは、西武の十亀剣投手、広島の堂林翔太選手、磯村嘉孝捕手などを輩出、現在は豊田市を中心に、遠くは半田市、三重県桑名市からも中学生が集まってきている。1年生18人、2年生26人、3年生30人の大所帯を支える監督、コーチのほとんどが社会人野球出身者。総勢74名の選手を、レギュラー組、B組、1年生の3班に分け、体力に応じた指導を心がけている。

チーム一のムードメーカー、長打力が魅力の4番、外山立悟くん(3年)は、小学校6年の時、燃え上がった練習していた

先輩たちの姿を見て入団を決意

した。「雰囲気も、練習方法もいいんです」と胸を張る。エースの柿田有輝くん(3年)は気持ちの強い投手だ。「このチームにいたから全国大会に出場できた。将来はプロ野球選手になって、二振をとれるピッチャーになりたい」と夢を語った。大きな体の横井優輝主将(3年)は、右翼の守備位置からでも投手に大声をかけるという。

チームの自慢を聞くと、「試合で打てなかったりすると『どうなった?』ってベンチで聞いて、選手同士で気付いたことを言い合います。みんなが戦う。先輩たちもそうやっていましたから」と強さの舞台裏を語る。



守備練習に励む豊田リトルシニアの選手たち



チームを率いる小林晋也監督(57)は「入団する時

学年別ではなく実力でベンチ入りを決めるとはつきり家族に言います。弱い気持ちはダメ、厳しいチームなんだと。そりゃ、辞めたいという選手もいますよ。でも考え直せと言う。野球がうまくなるより、3年間やり続けることが大切だから」と言い切る。

シニアになれば、小学生とはボールも、バットの重さも、グラウンドの広さも変わる。まずはボール遊びをしつかりさせて、シニアの野球に慣れさせることから始める。大きな声で全力疾走できればまずOK。その後は、選手の性格にあった指導方法を見つけていくんだそう。僕は基本厳しく追い込む方だけど、時代は変わっていくからね。中学生として、学業をおろそかにせず、家族を大切に、そして最後まであきらめない人を育成。選手、家族、監督、コーチ、スタッフ全員で楽しく日本一を目指していく。